

NPOかながわ環境カウンセラー協議会

KECA ニュース NO. 44

平成23年4月25日 発行

巻頭言

コミュニケーションし、助け合って、明るく楽しく活動しよう

理事長 杉浦弘祐

東北関東大震災により被害を受けられた、東北ブロック及び関東ブロックの仲間たちへ、謹んでお見舞い申し上げます。ECUを中心に災害支援募金が検討されていますが、かながわ環境カウンセラー協議会としては、助け合いの精神により是非募金させて頂きたいと考えております。コミュニケーションをとり、助け合って、仲間達が一日も早く立ち上がり、環境保全活動に積極的に参加する日がくることを念じております。

本年度は、環境教育及び地域活動の活性化、新規事業の立ち上げ、内部体制及び体質の強化を活動方針として掲げ活動をしてまいりました。いわゆる人材育成、財務体質の強化と組織の強化であります。会員諸氏の努力により少なからず成果を得ることが出来たと考えております。

様々なトラブルが発生し対応策に追われ、環境保全活動に注力できなかった事をお詫び申し上げます。原因の一つに、理事長をはじめ、お互いのコミュニケーション(意思疎通)が不足していたことが挙げられます。今後は本音で話し合いが出来るようなKECAに育てていき

いと考えておりますので、日常は勿論、積極的にコミュニケーションできるようなプランを立て、実行していきたいと思っております。

又、トラブルのなかにはNPO法、定款や支部活動費支出規定(細則)に違反する行為が認められ、多少の所は大目に見るべきだという理事もおりますが、全く無責任な発言であります。定めたことはみんなで守るのが基本であり、人間が作った規則であり不備な点があるのは当たり前のことです。又、KECAの発展に規則が追い付かない場合もあります。不備な点があれば、勇気を持って改訂提案をすべきであります。このような問題が発生するのは、これも会員相互のコミュニケーション、信頼関係がうまくいってない証拠であると思っております。

内部体制の強化を方針に掲げ、PDCAサイクルを回す事を提案してきました、この問題を解決するには、PDCAサイクルをしっかりと回す事が必要であると考えます。

今回のトラブルを教訓とし、コミュニケーションを図り、助け合いの精神で明るく楽しく活動しましょう。

支部活動報告

横須賀三浦支部 支部長 高橋弘二

1. 支部集会：休会中
2. 支部活動

複数支部会員による活動ができないため、下記市民活動団体から退会した。

三浦半島まるごと博物館連絡会、すかつ子セミナー実行委員会、よこすか環境懇話会

以後、環境カウンセラーの個人活動として行う（他団体所属）。

3. 報告事項

- (1) 環境カウンセラー養成支援セミナー

昨年8月14日（土）湘南国際村センターで実施した環境カウンセラー養成支援セミナーを受講し（7名）登録申請した3名のうち2名から市民部門合格の連絡があった。

(2) 表彰

1) 1月29日、「すかつ子セミナー・自然系A&Dコース」が第2回横須賀ECO大賞受賞

2) 3月14日、横須賀「水と環境」研究会が平成22年度かながわ地球環境賞受賞（いずれも、高橋弘二支部長が主導・活動している市民団体）

横浜支部 支部長 原 洋夫

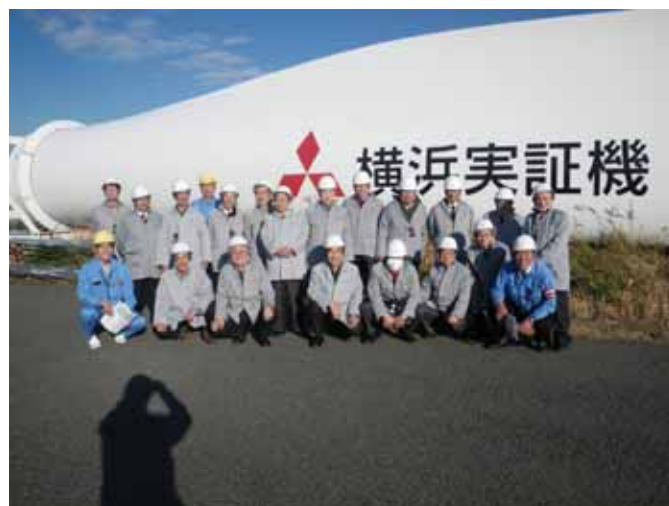
2010年度下期後半の活動について主なものを報告する。

1. 支部会議の開催

当支部は月例会議を原則として毎月第4木曜日開催することになっています。場所は桜木町の横浜市市民支援センターである。最近はこの会場を確保するのに競争が激しく苦勞しているが、松永会員の努力で何とか続けているのが現状である。今年度も10月から2月まで開催したが3月は東日本大震災で久しぶりに中止となった。主要議題は理事会・委員会の報告、支部活動の企画から実行までの協議、KECAイベントへの参加員調整等である。また各会員からの環境情報の紹介も多様で参考になっている。毎回出席者は15～20名であるが支部会員は50名余おりもっと参加してほしいものである。

2. 三菱重工業(株)横浜製作所見学(2010年12

月10日)



KECA持ち回り理事会で横浜支部担当となり、横浜製作所労組井手書記長のご配慮で主として風力発電設備の試験発電設備や組み立て工場を見学した。客先は米国、欧州のほうが多く、ここではナセルなどの主要コンポーネントを組み立てて海外に運ぶ。羽根など大きなものはメ

キシコで生産しているとの事であった。
2400kW 級風車のテストを金沢工場で実施しているがそこに置かれている長さ約

50mの羽根を背に記念写真を取ったがその巨大さがわかると思う。

3. “新治市民の森” 自然観察会 (2011年1月8日)

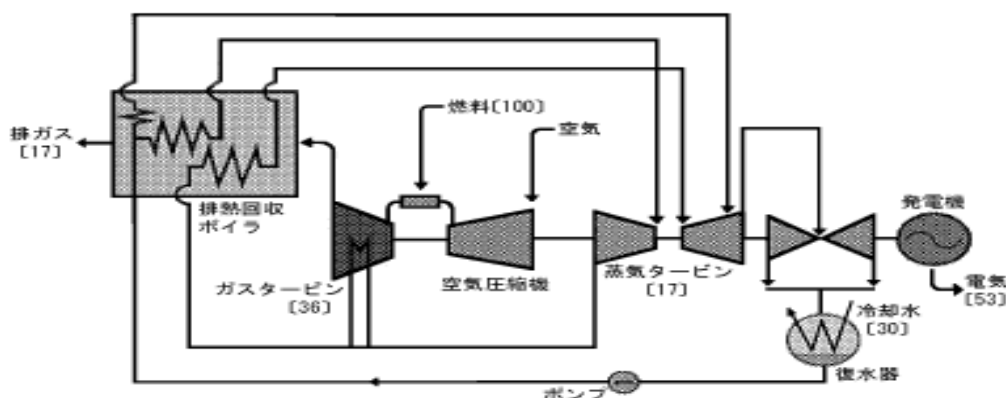
横浜市緑区の当該地は管理された自然林と里山の残された市内でも貴重な自然の残る場所である。KECA市民活動研究会との共催で、関係者と支部会員及びその家族14名で1月8日開催した。大中理事、河野理事の地域の歴史、自然に関する話を聞き最後にこの一画にある旧奥津邸(写真)で懇談。楽しい催しであった。



4. 東京電力(株)川崎火力発電所 (2011年1月20日)

今年最後の見学行事として石黒、樋口会員の骨折りで川崎市の千鳥・夜光コンビナートにある上記発電所を12名で見学した。ここの特徴は近接の天然ガス貯蔵所から引いてきた天然ガスを3基のコンバインドサイクル発電により50万kW*3基=150万kWの発電能力と余熱を蒸気として近隣12企業の供給する最新の発電所である。MACC (MORE ADVANCED COMBINED CYCLE) と称

する三菱重工製ガスタービン+蒸気タービンを組み合わせ、燃焼温度1500で発電効率59%と非常に高効率である。更にもう3基建設中(平成29年完成予定)であるが合わせて300万kWとなれば、原子力発電の安全性が問題になっている現在、狭い敷地で高発電量を提供する都市近郊の発電所として注目すべき存在である。下図はMACCコンバインドサイクル発電方式の概略図である。



川崎支部 支部長 照沼俊夫

川崎支部の活動を総括して報告します。支部の活動は大まかに言って、支部独自の活動と支部員各位が取り組みたいと思っている事柄を委員会活動の中で実現するという活動と二つある。については、例年の行事としてa. 植樹祭の企画実施又は参加、b. 野鳥観察を中心とする自然観察会の企画実施である。植樹は計画通り実施できたが、野鳥観察会は東北関東

大震災影響があつて残念ながら実施を差し控えた。については、詳細は委員会の報告に委ねるが、委員会活動の中で中心的な役割を担いつつ、a. EA21の普及啓発、b. 学校への出前授業、c. 省エネ活動の普及啓発、d. 市民活動の拡大啓発等が、積極的に推進された。



湘南支部 支部長 西村堅一郎

1 定例的な集会・会議

毎月最終金曜日の午後6時30分から「藤沢市民活動推進センター」で開催している。各会員の活動と支部活動について意見を交換している。

1月28日、2月25日 実施

3月は大地震のため中止した。

2 会員の動静

昨年4月に湘南支部会員は21名だったが、5名の退会があり、本年3月末現在16名となった。

3 昨年度の活動

昨年は「ふじさわ環境フェア2010」「ちがさき環境フェア2010」に参加した。手回

し発電機を使った「回転寿司」とか「六角返し」など新しい出し物が多く、好評であった。遊びながら、それとなく環境問題について話をすることで、自然に覚えるのではないだろうか。本年は新江ノ島水族館のイベントに参加したり、他の支部の活動に参加した。

4 今年度の活動

藤沢市、茅ヶ崎市の環境フェアが天候とか選挙の関係で11月頃になった。少し時間をかけて新しい出し物を考えて行きたい。また、他の支部との交流を図りたい。

夏の電力不足が予測される中で、省エネ生活推進キャンペーンを夏の来る前に何らかの形で行いたいと考えている。

県央支部 支部長 古川 輝夫

県央支部本年度の活動において2010年11月から2011年3月までの活動内容について、地元市民への教育並びにEA21普及活動・支援及び会員研修及び各委員会、総合研修会への協力を積極的に進め支部活動の活性化を図った。実施状況について時系列的に下記の通り報告致します。

- ・ 11月17日 厚木市商工会議所のグリーンビジネス交流会に参加し、EA21普及活動・支援を行った。

- ・ 11月26日～27日 KECA総合研修会 に参加した。(参加者6名)

- ・ 12月9日 厚木市商工会議所のグリーンビジネス交流会に参加し、EA21普及活動・支援について協議を行った。

- ・ 12月12日 生ゴミ処理装置の工場施設見学と支部会議(伊勢原市飲食街のポポロの

広場)の開催(参加者7名)

生ゴミ処理装置(マジックバイオくん)の特徴についての概要は次の通り

- ・ 食品リサイクルシステム

物流コストを低減するため「地産地消」と「食の安全」

地域のレストラン街に生ゴミ処理装置を設置し、そこから出た堆肥は近くの農家に無償提供し、供給を受けた農家は無農薬野菜として地域のレストランに食材に使用することで、生ゴミを無農薬野菜にリサイクルする地産地消のシステムの形成

- ・ 装置の簡単操作・・・一日何回も投入可能

生ゴミ投入してタッチパネルの5種類の稼働パターンを選択

破碎による外形の減量(20分間)・・・攪拌・破碎メカニズムは特許

有機物質は発酵分解(40分間)・・・バイオテック

1/3による発酵分解の活性化

水蒸気と炭酸ガスは大気へ還元し、加減成分などは無機物質成分は残渣として残る。臭気騒音のない無公害な装置・・・特許取得済み

発酵分解完了・・・堆肥として地域の農家に無償提供し使用

- ・ 1月13日 海老名市役所訪問を訪問し、EA21普及活動・支援について協議した
- ・ 1月25日 伊勢原市職員、商工会職員にEA21の説明会(参加者20名)

伊勢原市温暖化防止条例にEA21事項を取り込み依頼し、取り込み済み。

- ・ 2月22日 自然考察会「弘法山コース」に参加した。
- ・ 3月2日 コクヨへの見学会(参加者8

名)

見学内容については別添の通りご報告します。

また、エコアクション21の相模原イニシアティブでは当支部から多くの指導員が指導・助言を行っておりEA21の普及啓発に協力しています。

他に、会員の原さんから関係者に対して、定期的に刊行誌の「かわせみ」及び四季折々の動植物写真をいただいております。特に、外来種による環境への変化を教えてもらっています。

最新のエコライブオフィス(コクヨ)見学会の報告

県央支部 守谷喜芳

3月2日、品川駅近くの最新のエコライブオフィスと言われているコクヨ(株)ショールームを8名が見学してきました。

指定の時間にお伺いすると、既に案内の女性の方が待っていてくれました。早速、案内してくれたのが、社員の皆さんが仕事をしている3階のオフィスです。3階は三つの部分に分かれています。一般にいう居室とセミナーや社内外の人が集うスタジオと呼んでいるスペースとガーデンオフィスです。社内の交流と仕事の効率を上げるための工夫がされています。居室には個人の専用の机はありません。入口に置いてあるパソコンに向かって集中した仕事をするのか、交流のできる場所にするのかを選び、予め使用する時間を決めてインプットすると座る場所が指定されます。居室全体の照明と手元照明のバランスをとって仕事の効率が上がるようにしています。また、天気の良い日は、ガ

ーデンオフィスにパソコンを持って仕事ができる様にしています。

それぞれの社員が環境に配慮した行動をパソコンに登録すると二酸化炭素の削減に貢献したのかを集計できるようになっています。エレベーターを使わず階段を使うとポイントになり、ガーデンオフィスを使用するとポイントがもらえる制度です。「エコピヨ」制度と呼び、特に貢献度の高い人は表彰されるようです。社員の環境意識の向上と照明機器類を環境対応のものに変えたりして、6階建のビルが1年後には従来の二酸化炭素排出量を43.6%の削減をしたとの報告がありました。

もう一つの特徴はエコバツ制度を立ち上げて成果を上げたことです。自社のカタログに環境配慮のない商品はバツをつけました。社員はバツをなくすために商品の改善や新製品開発をしています。また、バツの基準を毎年上げて

います。今年のカatalogは、バツがなくなっています。

オフィスを見学したあとは、コクヨの環境対応の製品を見てまわりました。間伐材を使用した机やダンボールで作ったテーブル、受付フロア全体を環境配慮にした製品を提案したところもありました。

コクヨ(株)が環境に配慮した製品を作り出し、社員が実際に使用して成果を出している事例であり、参考になりました。帰りには、築地で



ランチをとりながら交流を深めた見学会でした。

西湘支部 厚見安宏、木村隆男

支部活動の概要:今年度は環境教育、環境フェアへの出展など、年度計画に基づきほぼ順調に活動をすすめました。また、市民活動研究会とともに初めて環境考察会を行いました。11年

環境考察会 真鶴半島:2011年2月8日(火)、総勢8名で真鶴半島をめぐる環境考察会を実施しました。真冬の2月ということで寒さを心配しましたが、当日は若干曇り空でしたが風はなくまああの天気だったので正直ほっとしておりました。本散策のメインテーマは御林(おはやし)と魚付き保安林の観察としていたので、森林遊歩道、番場浦遊歩道、潮騒遊歩道、お林遊歩道を散策し樹齢350年から400年の松の群生やシイ、クスノキの巨木と平日のため人通りもなく静かな森のたたずまいを堪能致しました。同じ森でも松、クスノキの森は植林されたもので、シイの茂った森は自然のままのものだという説明には、ああそういうものなのかと納得。松枯れを防ぐために農薬散布用の塩ビパイプが所々の松の幹に設置されているのが何となく無粋に思われました。真鶴岬先端から見える伊豆の海、相模の海は絶景で、与謝野晶子の「わが立てる真鶴岬が二つ

度は今年度と同様な活動を計画していますが、より地域に密着し活動を展開する予定にしています(木村)。

にす 相模の海と伊豆の白波」の歌の通りと感じ入りました。とはいえ歌碑の文字が読めた訳ではなく、ガイドマップの解説で歌の文言を知ったのですが。真鶴は石材、小松石の産地としても有名だそうで、道路のガードレール代わりに石が並べて置かれてあり又テトラポット代わりに海岸縁に大きな石が投げ込まれてあるのが印象的でした。真鶴は海の幸にも恵まれ魚が美味しいということで、14:00前まで昼食は我慢し、魚市場にある魚座と言うレストランへ。皆さん刺身定食と生ビールを注文。美味しいものに巡り会え、今日の真鶴半島の環境考察会の印象はすごくよくなりました。駅への帰りの登り道の途中、真鶴の有名な道祖神である、西の道祖神を拝んできました。他所で見る道祖神に比べると少し大きいものでした。真鶴にはこのほかに東の道祖神、鯖大師、背戸道等まだまだ散策するところはあるのですが、森林散策と魚料理に堪能した考察会でした。(厚見)

委員会活動報告

委員会の活動報告

～今年度の活動状況と委員会活動の支部への展開～

副理事長(委員会担当) 河野 健三

1. 2010年度の委員会活動

2010年度の委員会活動は環境管理委員会、環境教育委員会を中心に、各委員会とも活発な活動が展開された。環境管理委員会はKECAの財政を支えるEA21の普及啓発活動を推進し、EA21システム構築の指導案件は目標10件をオーバー達成する成果が得られた。地域事務局との共催によるEA21普及セミナーの開催、個別企業への出張セミナー等による活発な委員会活動の成果と考えます。

環境教育委員会は新規事業としてのECUと共催した環境教育インストラクター養成講座の開催をはじめ、地域の環境教育を進めることを目的とした総合研修会への協力、出前授業の実施等確実な成果を上げました。

エネルギー委員会は省エネセミナー開催・省エネ診断の実施、化学物質委員会は環境ダイアログの実施検討、3R/LCA委員会はびんリユースの推進検討等を行ってきた。対象とする受益者が事業者・市民・学校から行政まで多岐に亘ると共にニーズも多様なので、息の長い活動として捉えていく必要があります。

私はKECAニュース41号で述べた通りKECAの活動は環境教育と環境経営という二つの軸に集約されると考えています。

これら3つの委員会は環境教育と環境経営を通して受益者(事業者・市民・学校・行政等)に対してどのような貢献ができるのか、どのようなニーズがあるのかについて、各委員会内で検討し、今後の活動に反映して頂きたい。

市民活動研究会は支部との共催を含み4回の環境考察会を実施したが活動予定期間1年を残して発展的に解散することになった。環境考察会の開催は支部に移管することになるので支部の特長を生かした活動をお願いしたい。

広報委員会はKECAニュースの発行、ホームページのメンテナンス等KECAの広報活動に尽力して頂いた。今後は事務局の中で、ホームページへのイベント情報の掲載による会員同志の交流等、更に幅の広がった活動をお願いしたい。

2. 委員会活動の支部活動への展開

委員会と支部との役割については、委員会は県全体の横断的な活動、支部は地域に根を張った活動に分けられると思うが、これからは地域への貢献を目指し支部活動へ重点を移していく必要があると思います。

前項で述べた委員会活動の中で、出前授業、省エネセミナー、環境考察会等は支部活動として展開が可能です。委員会はそれぞれの分野の専門家集団ですが、支部には多彩な才能を持った会員が数多くいらっしゃいます。これらの会員の活躍の場として環境教育と環境経営を考えた時、地域にどのような貢献ができるか、各支部内で検討して頂き、それを委員会がサポートするような体制とするよう検討していきたいと思います。又、本年度から取り上げた環境経営支援はKECAの財政を支える大きな柱になると思うので併せて支部活動の中で取り上げて頂きたい。

環境教育委員会 委員長 高橋 弘二

1. 委員会活動

下記のイベント開催に向けて月1～3回、
県サポートセンター9階他で開催した。

2. 環境教育インストラクター養成セミナー

日時:1月22日(土)10時～17時、23日(日)
10時～15時30分

場所:横浜・シルクセンター地下会議室

参加者:29名(KECA会員14名、会員外15名)

[概要]

(1)ECUの環境大臣登録人材認定事業に「環境教育インストラクター」として認定してもらうために必須なセミナーで、ECUから神奈川での開催を要請されていた。

参加者が少ないことが予想されたため、講師は環境省関東地方環境事務所松谷課長以外は、KECA環境教育委員会で担当、テキストもECUからの資料を中心に会員による手作りとした。

(2)セミナーは、環境学習授業の実践に重点を置き、4グループに分けて全員に「模擬授業(20分)」を課し、その後、全員の前で代表4人によるデモ授業をしてもらい、講評・意見交換を行った。

(3)参加者からも好評で、来年度も実施していく予定である。

3. 第17回市民環境活動報告会

日時:3月5日(土)13時～17時

場所:かながわ県民センター2階ホール

参加者:約80名(KECA会員15名)

KECAの口頭発表:

早野木の美氏『環境カウンセラーと共に歩んだ大学における「環境カウンセラー講座」』

KECAポスター発表

今泉 奉氏「環境カウンセラー活動と

COP10」

木村隆男氏「環境考察会」

[概要]

県からの金銭的支援が得られなくなり、神奈川県環境学習リーダー会を中心とする実行委員会で企画運営にあたった。KECAからは岡本、川村、石黒氏3名が実行委員として参画し、報告会当日の司会を岡本氏、補佐を川村氏が担当した。発表後のポスターセッションでは、ホスターを前にして熱心な質疑、意見交換が行われた。

3. 新エネルギー・省エネルギー学校派遣事業(詳細はKECAホームページ参照)

(1)横浜市立富士見中学校(横浜市中区)

日時:平成23年1月24日(月)、26日(水)、
31日(月)、2月7日(月)

対象と授業内容:1年生(71名):ごみと3R～ごみを増やさないエコ生活～

2年生(73名):ごみと3R～循環型社会を形成するために～

指導者:岡本正義、嶋田和夫

補助指導者:河野健三、大野昌美、

平野雅明、岩村順雄、斎藤昭義

(2)川崎市立御幸小学校(川崎市幸区)

日時:平成23年2月24日(木)、28日(月)、
3月4日(金)

対象と授業内容:5年生(90人):

木に触って、森、木の働きを知ろう

指導者:岡本正義、嶋田和夫

補助指導者:大野昌美、岩村順雄、

近藤勝養

化学物質委員会 委員長 木村隆男

化学物質委員会は、市民・事業者・行政を結ぶリスクコミュニケーション(活動プログラム名『環境ダイアログ』)を活動の中心におき、それを補完する活動として PRTR データの解析結果等の Web での公開をすすめてきました。しかし、前号(KECA ニュース第 43 号)で報告したように、活動プログラムの難しさや委員

数の減少などの理由によりここ 2 年間は社会に向かった具体的な活動はできていません。

ここにきて委員数も 5 名に増え、現在では 2011 年度に向けて、活動の問題点や新しい取り組みの議論をしています。社会に貢献できる確かな活動をすすめたいと念じています。

環境管理委員会 委員長 照沼俊夫

過去に断片的ではありますが報告しているので、重複するものもありますが、年間を通した状況について報告します。

1. コンサル案件は、毎月実施のセミナー及び無料出張セミナーを中心にして、EA21の普及啓発を図りました。その結果、予算10件に対し、18件の指導申し込みを受け、順調に推移しました。これは審査人各位の努力の賜であり深く感謝しています。来季この反動が来ないよう各位の奮励を期待します。

2. 自治体イニシアティブ&グリーン化プログラムは、昨年比して低調でした。プログラム数は3本で、トータルの参加企業は17社でした。来年度は実施方法について、検討をする必要があります。

3. 2009年版指導教材の改定と事業者へセミナーは順調に実施できました。旧版を使用頂いている事業者への浸透の余地は、まだ残っていますので今後とも審査人各位の努力に期待します。

4. 2009年版教材の会員審査人へのセミナーも順調に実施できました。まだ受講していない審査人もおられますが、コンサルの実施、審査の実施に重要な意味を持ちますので是非受講して下さい。受講申し出があればその都度講義をしますので、いつでも申し出ください。

5. 審査人研修会は、2回実施の予定でしたが、東北関東大震災の影響で2回目は実施できませんでした。2回目は化学物質について計画していたのですが、来期への持ち越しです。

6. 新規事業として、東京商工会議所が推進している eco ピープル養成講座をスタートさせました。まず手始めに KECA 会員向けに第一回目を実施しましたが、低調でした。

7. 新たな EA21 普及啓発の手法として、事業者組合単位の集合指導(割引特典あり)を県内の S 組合について企画推進中です。S 組合としては EA21 への取り組みを決めていますので、参加事業者の出足の様子を見ているところです。

エネルギー委員会報告 委員長 西村 堅一郎

エネルギー委員会は毎月第3金曜日に県民センターにおいて、地球温暖化防止のための例会を開催しています。また、事業者を対象とした省エネ診断、省エネ・アドバイスをしています。

本報告では東北地方太平洋沖地震の影響について、何をしないとイケないかを考えてみましょう。

今回の地震・津波によって福島第一発電所（発電所出力470万kW）第2発電所（同440万kW）の停止及び常陸那珂発電所1号機など火力発電所が停止している（総計最大出力680万kW）。東京電力の認可最大出力は2010年6月末で6449万kWであるので、現在の停止中の発電所の出力（1590万kW）は全体の25%にも当たるのである。現在の発電最大出力は地震時に休止していた原子力発電所、火力発電所を稼働させても5000万kWを切っている。ちなみに、計画停電の3月末では休止中の原子力・火力発電所が多く、3750万kWであった。一方、昨年2010年のピーク需要電力は5999万kWであったので、現在の発電最大電力では、約1000万kW不足する事になる。

周波数変換（最大100万kW）、火力発電所の復旧、休止中の石炭火力の復活、休止中の柏崎刈羽5号機の稼働、LNGガスタービン発電機の設置などを考えても、不足分を補充できない。このため、夏場に緊急停電を避けるため、計画停電が行なわれることも考えられる。これを回避するため、電力需要の多い、ウィークデ이의昼間を避けて、休日、夜間、朝など比較的電力需要の少ない時に稼働する操業形態の改善が求められるようになるだろう。

さらに冷房の一層の省エネルギーが求められるので、冷房の省エネについて述べる。

冷房の省エネも

外の熱を入れない。

建物に開口部、すき間を塞ぐ、

シャッターの開閉を素早く

屋根からの熱防止 屋上緑化、断熱塗料、断熱シートなどで防止。屋根に水撒き

バンボライトは断熱シート張り、

壁面、ガラス窓からの熱防止 緑のカーテ

ン

壁面緑化 シャッターなど内部厚手のカーテン ヨシズ ガラス遮熱シート貼り 積層ガラス 2重窓

内部の熱発生を少なく

発熱機械（冷蔵庫、コピー機、湯沸しなど）

は冷房が当たらないように仕切りを

工場のコンプレッサーなどの発熱機械は冷

房場所とカーテン、パーテーションなどで分

ける。

設備の整備、清掃、

エアコン室内機、室外機の熱交換部分の清掃

フィルターの清掃

室外機の熱交換部のミスト水冷却

クーリングタワーを清掃

古い機械の高効率機へ交換

配管断熱材の破損

設定をこまめに換えよう

扇風機・サーキュレータの使用

外気温を考慮した室内温度

換気扇の運転（熱交換式換気扇）

まだまだあります。あなたの工場、事務所は何をやっていますか？

エネルギー委員会では本年度

無料の出前省エネ相談・省エネ診断

を実施します。ご希望の方は西村のメール

kenisimura@jcom.home.ne.jp へどうぞ

3 RLCA 委員会 委員長 齋藤雅彦

びんリユースの調査については3 RLCA委員会としてこの1年間、関係者の皆様のご協力を得て、目的や内容について、おおよそまとめて来ましたが、ただ調査対象の契約者の問題で計画実施が延びてしまいました。今後の進め方の概要について報告致します。

- 1 目的：横浜市にびんリユースの導入によるCO2削減効果を提案し実施効果の計画を横浜市に提案する事を検討する。
- 2 実施内容： びんリユースを現在の0%を10%、20%、30%と目標を上げる事によりCO2の削減量を具体的に示す為、LCA手法を用いて横浜市に提示する。
LCA手法を用いてびんリユースの為に回収から洗浄にわたり、運搬を含めてCO2発生量を推計するのに6ヶ月間とした計画書を横浜市に提案する。それに要する予算内容をまとめ、本計画の予算は(仮)「独

立法人・環境基金」等に申請する事を検討する。

3.更に「我が国に於ける瓶リユースシステムの在り方に関する検討会」に参加し現状の説明を聞いた。(2月1日)。びん商から酒造メーカーまでの実際の事業を通しての諸問題について討議して今後どの様に推進するかを検討する事となった。

尚検討会メンバーは 環境省リサイクル対策部リサイクル推進室、室長 森下 哲、

国際連合大学名誉副学長 東大名誉教授 安井至、日本酒造組合中央会部長 木内真二、日本P箱レンタル協議会 八木澤会長、全国びん商連合会 吉川会長、

(株)エコサポート小沢一郎、ガラスビンリサイクル促進協議会幸事務局長等である。

市民活動研究会

～市民活動研究会活動報告～2年間のご支援ご声援ありがとうございました～

市民に向けて、環境問題を知らせて、市民が行動することを期待したのが、市民活動研究会の動機である。ところが、知ることから、行うことまでの間は、かなり遠いのが実情である。「知っていても、やらない」のが、おのれをかえりみでの反省でもある。であるなら、行うことから、知ることになるという逆転の方法もあるのではないかと、というのが思ったことである。「研究するよりも、実行を」ということだ。(大中睦夫)

2年間に、支部との共催4回を含め計6回の

大中睦夫、河野健三、木村隆男環境考察会を持ちました。これによりKECA内にわれわれの活動は認知されました。その一方で、仲間(委員)を増やすという目的は達成されず、委員は発足当時の3人とどまりました。現状ではこれ以上展望のある組織的な活動を展開することは難しいため、また地域での活動に重点を移すため、研究会は解散することにいたしました。会員及び市民の皆さんから頂いたご指導・ご声援に感謝いたします。今後の予定ですが、われわれ委員は指導者としての専門性を自ら高め、各支部等で地域に密着した活動を

すすめることにしています。

人間の目は自然に対して節穴だと言われます。2年間フィールドワークをすすめてきて、あらためてその言葉の意味を実感しました。地

球環境(自然)の歴史をもう少し長い時間軸で眺め、もう少し自然科学にもとづいた環境問題への取り組みが必要に思います。(木村隆男)

広報委員会 委員長 玉川達久

1. 活動状況(下期)報告

1-1) 広報委員会(臨時)の開催

日時: 2010年11月28日14時

場所: KECA事務所(会議コーナー)

出席者: 4名

1-2) 広報委員会(第3回)の開催

日時: 2010年12月25日13時

場所: KECA事務所(会議コーナー)

出席者: 6名

2) KECAニュース43号の発行及び配信・配送

発行日: 2012年12月25日

発行部数: 70部

KECA会員へメール送信、関係諸団体へ送付
ペーパーレス化で送付からメール配信へ

2. 実施体制

今年度下期は下記の体制(7名)で進めました。

- ・広報委員長 = 玉川達久。
- ・副委員長 = 今泉 奉。
- ・KECA ニュース担当 = 正) 島田和夫、副) 岩村順雄、秋元文雄。
- ・ホームページ担当 = 正) 西村堅一郎、副) 上野秀一。
- ・環境らしんばん担当 = 担当者退会で休止中
- ・その他、催し物は各支部・委員会等で従来通り担当して戴きました。

体制強化のため新たなメンバーの募集を行っております、会員の皆様の協力をお願いし

ます。

3. KECAニュース(43号)について

1) 発送数は、行政商工等 = 12件、カウンセラー等の全国組織 = 43件、企業等 = 0件、その他 = 2件の計57件です。

2) KECAニュース発行マニュアルの整備
発行業務のリスク対応力強化の為に「KECAニュース発行マニュアル」を随時整備しております。

4. ホームページについて

1) ホームページのリニューアル

KECA ホームページの現状改善を図り体制の再構築を進めました。

(<http://www1a.biglobe.ne.jp/hama37keca/>)

2) HP活用の促進と体制

広報委員会のHP担当として西村様と上野様を中心に進め、岩村様にも加わって戴きました、今後も協力者の増員を図っております、会員の皆様にご協力をお願いします。運営ルール等を随時整備する予定です。

5. KECAリーフレットについて

1) KECAのPR用として簡単な冊子の作成を進めました。

2) 広報委員会の今泉様・岩村様、会員協力者の野々村様、杉浦理事長などの方々を中心に製作担当をお願いしました。

3) 来年度にはKECA-HPで公開予定です。

会員の動向

新入会員の自己紹介

横浜支部 杉浦 勲さん

2009年度事業者部門で登録した杉浦勲です。横浜市青葉区に居住しており、このたび

KECAに入会させて戴くことになりました。

長い間地元の鉄道会社に勤務してきましたが、この間鉄道施設物の建設改良、鉄道構造物のメンテナンスなど主として建設系の業務に携わってきました。

KECAでは建設環境に係わるテーマのほか廃棄物問題、3R問題またエコアクション21の普及促進にも取り組んでいきたいと思ひます。

今まで会社内では環境に係わる取り組みをしてきましたが外部での活動は皆無です。会員の皆様のご指導を頂きながら力を尽くしていきたいと思ひますので宜しくお願いします。

横浜支部 吉野 榮一さん

このたびは、KECAに入会させていただきましてありがとうございます。

私はガラスびんメーカーに勤務し、主に、省エネルギー、公害管理、ガラスのリサイクルなどを担当してまいりました。まもなく定年を迎

訃報

KECA会員(川崎支部)谷敬氏が逝去されました。

3月18日に斎場祭(仏式でいう葬儀)がありました。

谷さんは、KECAに入会した時には既に肝臓

えるにあたり、今後は、ひさしく企業において習得してきた技術を社会に還元できたらと願っています。

具体的には、EA21の審査人として事業所への支援、LCA手法の普及、企業経験を生かした環境教育などを実施することで、社会(次世代)への『恩送り』をしたいと思ひています。今後とも、よろしくご指導をお願いします。

横浜支部 森田 守さん

2011年事業者部門で登録した森田守です。横浜市栄区在住。

現在は通信用光部品製造会社の環境管理部門でEMS、廃棄物管理、省エネ、各種行政対応も含めた環境管理全般を担当しています。また以前、電気電子業界内の製品含有化学物質関係の委員に就任していたことから、RoHS、REACH等の製品含有化学物質に関する情報の収集と自社内への展開も行っています。

2010年にエコアクション21審査人に登録しましたので、中小企業に対して環境への取組みを行ってもらうため、環境マネジメントシステムの普及を行っていききたいと思ひています。今後、KECA会員の皆様方と連携して事業者の環境活動への取組みを支援していききたいと考えていますので宜しくお願い致します。

がんと患っていましたが、毎年入院し、大きい癌を各個撃破すると言う措置を行い、元気に痛飲していました。昨年5月の総会後の懇親会にも元気な姿を見せ、酒を飲んでいましたが、急に体調が変わったようです。 黙禱

事務局便り

未曾有の大震災(東北地方太平洋沖地震)が起きたのは、翌日からかながわ県民センターで開催される「市民活動フェア2011」のK E C A ブース設営準備に事務所へ向かうためバスに乗り込んだ直後でした。余りの揺れに乗客全員がバスから降りて収まるのを待っていたとき、通りかかった人が宮城の方で大きな地震が起きたらしい、電車も止まったようだと言う。仕方なくバスを乗り継ぎ2時間掛けて事務所にたどりつきましたが、まさかその日、帰宅難民になろうとは思っていませんでした。

事務所では、既に3人が待機していました(内2人は別件で朝から来所)。どうやら明日からのフェアは開けそうにないのではと確認やら連絡を取り始めましたがなかなか電話が通じません。やがて2人は退出し、小生も一旦家に引き上げて様子を見ようと桜木町駅に向かいましたが、電車は当然のことながら動いていない、バス停は何百メートルという長蛇の列、諦めて事務所に引き返し、最初から帰宅を断念していたKさんに合流して事務所残留組となりました。NPOスクエアにはやはり帰宅できなくなった10人程が残留するようでした。幸い21時近くになってから、大家である(株)横浜インポートマートさんの計らいで夕食の炊き出しサービスを受けることができました。そして、やっと21時過ぎになって理事長からフェア中止の連絡が入りました。関係者にフェア中止のメールを発信後、椅子を並べたベッドでなかなか寝付かれない一夜を過ごすことになりました。(以下省略)

福島第一原発(冷却注水と放射能汚染水の除去に苦慮中)がどうなるか大変心配ですが、K E C A の監査を巡る一連の騒動についても、一

刻も早い収束が望めます。

都合3回も総会を開くという前代未聞の2010年度はもう直ぐ終わります。早く終わらせたいところですが、是非次につながる終わらせ方をしなければなりません。そのためには、何故こういう事態になったかの原因究明がより重要であり、そのことに費やしたそして費やす時間と労力を無駄にすることはならないと切に願わざるを得ません。

かかる状況下、K E C A の本来業務である環境教育に関わる活動では、E C U と共催の環境教育インストラクター養成セミナーを初の開催にもかかわらず、関係者の熱意とご努力で成功裏に終えることができました。E C O 検定試験受験対策講座も今回初めてK E C A 主催で開催し、K E C A 所属のエコピープルが講師となり新たなエコピープルの誕生に貢献しました。小中学校・高校を対象とした環境教育の出前授業では、経験豊富な講師が中心となって実のある授業を展開し高い評価を受けています。一方、本来業務の柱であるE A 2 1 コンサル事業では、関係機関との連携及び関係者のご努力が功を奏し、計画の2倍近い受注を達成することができました。正にご同慶の至りです。

「真剣勝負は力量の差という現実を思い知らされることがあるので恐ろしい。しかしその緊張感のなかでしか生まれないのが創造力である」と建築家の安藤忠雄さんは言います。「戦い続ける厳しい世界でも、ときに思いもよらぬ形で夢がかなうことがある。だから生きるとは面白いのである」とも言っています。夢は持ち続けたいかなうこともありません。諦めないことが肝心ではないでしょうか。

木村信幸

編集後記

3.11以来、各種メディアで「がんばろう東北」「がんばろう日本」というスローガンが、これでもか！というほど溢れています。私はこの言葉にとっても違和感を感じています。被災者のみなさんを励ますつもりで使っている言葉が、実は被災者を追い詰めているのではないかと、ということに想いが至っていないことの証ではないかと考えているのは私だけでしょうか。被災者は頑張ろうにも頑張れない。家族を失い、

家を流され、会社も再開の目処がたたない。そんな方々に対して「がんばろう」という言葉はとても酷ではないでしょうか。避難所を視察し、「頑張るって欲しい」としか被災者に声をかけられない日本のトップの姿を見ていると、暗澹たる気持ちにさせられます。頑張るのは幸いにも被災しなかった私たちではないのでしょうか。小さな事でもいいから自分ができることをしませんか。

発行 特定非営利活動法人 かながわ環境カウンセラー協議会（KECA）

〒231-0001 横浜市中区新港2-2-1

横浜ワールドポーターズ6F NPOスクエア内

理事長 杉浦 弘祐

事務局長 木村 信幸

TEL : 045-226-5822 FAX : 045-226-5825

E-Mail : 37keca@kke.biglobe.ne.jp

URL : <http://www1a.biglobe.ne.jp/hama37keca/>

当協議会は環境省に登録された環境カウンセラーが市民、事業者、行政その他の関係機関に対してさまざまな支援活動を行っています。